

働き方改革対応や教員採用などの多忙感から本気で授業力向上を目指す学校が減少している
 地元地域のハートをガッチリつかむために、学校が自発的に気付くべき教科指導力向上のポイント

学校は、やはり『授業力』で決まる

『授業アンケートによる授業力検証』は効果大。
 だから、『検証～改善アクションのサイクル』をもっともっとバージョンアップする。

いよいよ新年度、新元号が発表され、新たな気持ちでお迎えのことと思います。新年度の最初のテーマはやはり『授業力の向上』です。学校の魅力はハード面やソフト面、様々な要因で決まっています。が、やはりより高めたいのは、学校生活で最も長い時間を占める『授業』の魅力や内容の充実ではないでしょうか。

ご多用のところだとは思いますが、お時間ご調整の上、ご参加いただければ幸いです。

●新しい時代対応

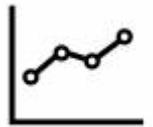
- ① みなさん、新学力という言葉やイメージは捨ててください。「真・学力」という正しい認識が突破口を開く。
- ② 気付いていないだけで、授業力をはじめとする教育力の学校間格差はどんどん広がっている。
- ③ 教科指導の強みをアピールしているつもりになっているだけで、アピールしている学校はほとんど存在しない。
- ④ 新テストの中身がはっきりとわからなくてもきちんと対策をとって前に進む方法がある。

●授業アンケートと授業改善への本気度が不足

- ⑤ 授業改善・授業アンケートは何のために行うのか(意義や目的)について学校全体で明確になっているか。
- ⑥ 授業アンケート～授業改善を「最後までやりきるぞ!」という意味は学校全体で十分なのか。

●授業力を本当に上げるための不可欠なポイントも不足

- ⑦ 授業力不足の先生へのイエローカード方式ではいけない。
- ⑧ 授業力のある先生にこそ課題が見つかる調査内容が必要だ。
- ⑨ 授業アンケートで『アクティブラーニングの授業』が本当の成果を上げているかを検証する方法。
- ⑩ どの授業工夫がどのような成果を生んでいるのかを明らかにする調査項目。
- ⑪ 分析の際に、上記の因果関係を明確に考察することが成否の分かれ目となる。
- ⑫ 新学力型の調査項目を盛り込むことは慣れ合い打破のきっかけになる。



●そして、意味のある取り組みなのだから、自信を持って生徒募集につなげる

- ⑬ 大昔に比べれば先生は聞く耳があるように見えるが、保護者からみれば気づいて(改善して)ほしい点はまだまだある。
- ⑭ この大きなニーズにこたえるのが授業アンケートシステムや学校アンケートシステムである。
- ⑮ だから、導入していること、そして、調査内容が改善を強く促すものであることをもっともっとアピールして良い。

講座概要	京都会場	4月23日(火) 14:00~16:30	京都私学会館	「烏丸」「四条」駅 徒歩5分
	東京会場	4月26日(金) 14:00~16:30	アルカディア市ヶ谷	各線「市ヶ谷」駅 徒歩2分

受付開始は、いずれの日程とも、セミナー開始 15 分前から。講師は、稲葉人司(弊社代表取締役)
 参加費はお一人様 10,000円(税込)でございます。当日に会場受付にてお支払い手続きください。

---申し込み用紙---

京都会場 4/23日(火) 東京会場 4/26日(金)

株式会社ヒューマン・リンク 京都市中京区
 TEL.075-212-7015 FAX.075-212-7016

貴校名	TEL;	FAX	
ご参加者	お役職;	MAIL	
ご参加者	お役職;	MAIL	
ご参加者	お役職;	MAIL	

切り離さずそのままファックス下さい【FAX.075-212-7016】ヒューマンリンク学校教育部